

## みんなの広場を 住民みんなの力で 育てていくために

みんなの広場住民協議会  
(NPO法人 公園づくりと公園育ての会)

### 発足からの歩み

みんなの広場住民協議会は、石神井町八丁目公園の今後のあり方について、地域住民たちで考えていこうという趣旨で、2007年11月に有志によって発足しました。

発足後は、住民協議会を開催し、地域の意見をまとめる活動を行ってきました。その中で、今後の行政と地域住民との協働作業を考えた場合、より公益性と公開性をもつNPOとして活動する事が必要と考え、2008年9月にNPO法人公園づくりと公園育ての会を設立しました。

また、2008年5月にまちづくり活動助成の公開審査を受け、助成が決定したときには、『今後の活動の大きな励みになる!』とメンバー全員で大変喜んだ、とおっしゃっていたのがとても印象に残っています。

### 地域住民が主体となったルールづくりを

その後も、住民協議会の開催はもちろん、ホームページを作ったり、ニュースレターを発行したり、実際に公園を住民活動の場にしている方を招いて講演会を行ったりして、より精力的に活動を行ってきました。その

結果、NPO法人が、11月30日に練馬区まちづくり条例\*における協議会認定を受け、施設管理型地区まちづくりによるまちづくりのルールを作っていくことになったのです。12月7日には、公園の基本計画を決める、第4回目の公園緑地課の意見交換会があり、ここに至るまでの地域住民の意見を充分採り入れた計画であったことから、住民の合意を得ることが出来ました。

\*練馬区まちづくり条例では、施設管理型地区まちづくりとして住民主体の地区まちづくりが進められるよう、公園、緑地などの施設について、地区住民や利用者が主体となった管理・利用に関する事項を定める計画(施設管理型地区まちづくり計画)に関する手続きなどを定めています。



認定の記念写真



公園の基本計画を決める意見交換会では、多くの人が集った

**石神井町八丁目公園は、約30年前から近接する私立石神井幼稚園の第2園庭として、園児だけではなく地域の住民に愛され利用されてきました。10年ほど前に練馬区に売却された後も、地域住民と区が一緒になって管理運営を行ってききましたが、都市計画決定され街区公園になることから、新たに住民と区の協働による管理運営の仕組みを作ろうとしています。**

まち活  
つうしん 12  
まちから

ねりままちづくりセンター 取材日:2008.06.08~

### 地域に根ざした公園へ!

今後は、活動の中で最も重要な、開園後の公園の管理運営に向けての本格的な検討に入ります。なぜ重要かという、公園になる以上、『今までどおりの広場のような使い方が出来ない』からです。

管理運営していくにあたっては、地域住民が主体的に管理運営していくことが、地域の安全のみならず公園利用者の安全や安心を確保できる最も確実な手法であることは多くの事例や論文が紹介しています。しかし、練馬区にはまだ『住民主体の管理運営公園』がありません。公園の管理運営の制度として現在あるのは、『自主管理制度』と『指定管理者制度』の2つですが、その内『指定管理者制度』については、まだ住民が行った例はありません。一方、地域住民の側にもそれだけ大きな責任を果たせるだけの覚悟が持てるかどうか、十分な議論が必要になっています。したがって、練馬区はどこまでの権限を地域住民に任せていいのか、なかなか判断がつかかねている状況です。そこで、地域住民と行政の双方が合意できる『新たな管理運営の手法』を官民の協働で整備することも必要になってきています。

そんな中、まちづくり条例による『施設管理型地区まちづくり』の『公園育て計画』については、NPO法人、公園緑地課、まちづくりセンターの3者によって案づくりが着々と進められています。特に注目すべきは、計画の中に『この3者を中心とした連絡会を設置すること』を明記する点にあります。来年度の計画承認を目指していますので、2010年3月末の公園開園までの間は、『連絡会準備会』として公園の管理と運営についての話し合いを行い、開園後は直ちに『連絡会』として機能できるように準備を進めています。

みんなの広場住民協議会  
(NPO法人公園づくりと公園育ての会)

理事の福田さんに  
聞きました。



**Q.** 地域住民による公園の管理運営を実現するための、一番の課題は何だと思えますか？

一言で言えば『住民力』ではないでしょうか。地域住民自らの見識や理解そして行動力です。そしてそれは、まちづくりに対する動機や継続に繋がりますので、『住民のまちづくりに対する意識そのもの』が一番の課題と言うことになります。そしてこれは、課題ですので『必ずや解決できること』と私達は考えています。私達がやってきたこの一年間は、まだまだイントロと考えていますが、この住民力が少しずつですが加速しています。

**Q.** 今後の活動について教えてください。

まちづくりには、継続が必要です。一方、一部の人達が継続して行くことには限界があります。つまり、継続していく仕組みが必要と考えています。それが、まちづくり条例による『施設管理型地区まちづくり計画』であり、『新たな管理運営の手法』の検討です。さらにそれらを支え、実行する『継続できる住民組織』です。この『継続できる住民組織』づくりを進めていく事が最も重要だと考えています。



みんなの広場住民協議会  
(NPO法人公園づくりと公園育ての会)  
について

**設立** 2007年12月(その後2008年9月  
NPO法人公園づくりと公園育ての会を設立)

**活動テーマ**

石神井町八丁目公園の公園整備と公園育てを契機とした、地域住民が行う子ども達への教育活動と地域安全活動並びに公園を核としたまちづくりへの醸成活動

**活動実績(2009年2月末実績)**

- ・『みんなの広場住民協議会』(12回開催)
- ・『NPO法人の会員を中心とした世話人会』(33回開催)
- ・公園整備における公園緑地課との意見交換(10回開催)
- ・都市計画課とのまちづくり条例打合せ(3回開催)
- ・まちづくり条例「公園育て計画(案)」づくり(公園育て部会)(5回開催)
- ・ニュースレター発行(第11号各号約200部)

**活動場所**

石神井町八丁目公園

**ホームページ**

<http://koen-sodate.net/>

**団体連絡**

[mail@koen-sodate.net](mailto:mail@koen-sodate.net)

**取材日記**

地域にある公園を地域の人に管理運営をさせて欲しい、という想いはとても素直な気がしました。それが今まで自由に使えていた広場だったならなおさら、そういう想いは強くあって当然だと思います。

しかし、公園になった以上、そういう訳にもいかず、どうやって出来るだけ今まで通りの使い方に近い方法が取れるのかを考えなければならぬ。

公園だから誰でも使えるのは当たり前。確かにそうですが…身近にある公園は、本当の意味で誰でも使えるものになるだろうか？そもそも、公園は、本当に誰でも使えるもので良いのだろうか？普段当たり前だと思っていることに、ちょっと疑問を持ってみると新たにいろいろなものが見えてくるような気がしました。

練馬まちづくりセンターは

**“まちづくり活動助成事業”**で、

みんなの広場住民協議会の活動を応援しています。まちづくり活動助成事業とは、まちづくり活動を行っている団体を支援する事業です。当センターのまちづくり活動助成には3つの部門があります。

【はばたき部門】 身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動への助成です。

【たまご部門】 これから身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動に取り組むにあたり、事前の学習をおこなうこと に対する助成です。

【テーマ部門】 身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創りだす活動への助成です。

練馬まちづくりセンターとは…

練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。